

長畝ふるさと通信



【2022年11月号】

■ 第17回 収穫感謝祭を開催

11月26日(土)、第17回収穫感謝祭を開催しました。コロナ第8波が来そうな気配を感じてか、子供たちとその親の大半は遠慮したようで、いつもより少人数の少し寂しい感謝祭となりました。

● 環境省自然保護官に聞いた

今回の公演は環境省佐渡自然保護官の西村さんにトキについて色々とお話を伺いました。

2008年に野生放鳥して14年が経過しました。8月31日現在で放鳥トキ151羽、野生下生まれのトキ418羽の併せて569羽が確認されているそうです。野生下生まれのトキの方が自然界に対する適応力が強く、生存率も放鳥トキに比べて高いとの事。2023年から鳥インフルエンザの回避や遺伝子の多様性を確保する為、能登や出雲、多摩などへの分散飼育の検討が本格的に進められるそうですが、トキが生息できる環境整備をどう進めていくかについては具体的な指標がないそうで、西村保護官いわく「佐渡の農家さんほど協力的な地域は無いです」との事でした。2025年までには1,000羽にまで増える予想で、佐渡の田んぼにはそれだけのキャパがあるそうです。田んぼの後継者不足が深刻な佐渡で果たして1,000羽のトキを腹いっぱいにするのか・・・問題は山積しています。



トキの展望台「トキのテラス」に飾ってあった写真です。羽色がなんともキレイです。

● コロナに負けず吞んで食う！



17回目の豚汁も美味しく出来ました。組合員から頂いたたっぷりの野菜(特に里いも)からいい出汁が出るんです。最大限に旨味を引き出すコツはゴボウや大根、人参などの根菜を油で炒めた後、煮込まずに「蒸し焼き」にすること。このやり方でサイコーに旨い出汁が引き出せます。17年の経験の賜物ですな。一度お試しあれ。

3年連続登場の元気坊主。こう見えて彼はまだ小学2年生。これからの成長が楽しみです。できれば佐渡の農業を背負って立つ逸材になってほしい・・・10年前の収穫祭の写真を見ると餅をついているのは殆ど組合創世記の大先輩たちでしたが、今となってはあの世でご覧になっている方々も・・・あと10年後にはどんな人たちが餅をついているのだろうか(餅つき機だったりして・・・)。とりあえず来年もやることだけはここで宣言しておきます。



■ スマートの波が押し寄せてくる

佐渡でもドローンを使った農薬散布が始めました。機械が好きで趣味を兼ねて取り組む人、テレビの「ポツンと一軒家」で80歳のおじいさんがドローンを使っているのを見て、俺でもやれると勘違いして取り組む人、いち早く流れに乗って新規事業に参入したい法人など様々。先日、新潟でドローン事業を展開する業者を視察しました。スマホで散布エリアをマッピングするだけで勝手に飛んで行って勝手に撒いて、勝手に帰ってくる。しかも早～い。お値段は本体だけで1台300万円也。



夏の炎天下で動噴背負って20kgの肥料を撒きながら汗だくになって畦道を何往復もする悪夢が頭を過る・・・。スマート農業って誰が付けたんだろう。なぜか自己嫌悪に陥ってしまうこのワード。戦争の道具として使うよりはマシだけど・・・。じっくりと吟味・検討して導入の方向で考えてまいります。スマートになるために！